

## IBAF 第 38 回ワールドカップについて

### 1. ワールドカップについて

1998 年の第 33 回イタリア大会以来「BWCーベースボールワールドカップ」と呼ばれるようになったこの IBAF（国際野球連盟）世界選手権は、1936 年にイギリス・ロンドンで産声を上げた。

第 1 回大会の参加は、イギリスとアメリカの 2 カ国だけだったが、5 回戦制で行われたこの大会では、イギリスが 4 勝 1 敗で優勝した。しかし、不思議なことにイギリスはこの第 1 回大会以来参加せず、今大会が 2 回目の出場となる。

第 2 回大会からは、舞台をアメリカ大陸に移し、1976 年の第 24 回コロンビア大会まではこの地域のみで開催されていた。

しかし、世界野球連盟が国際オリンピック委員会で承認された 1978 年以降は、その年の第 25 回イタリア大会を皮切りに、ヨーロッパで 5 回、アジアで 3 回、アメリカ大陸で 4 回開催されている。

開催地としては、前回大会まで 15 カ国・地域で開催されており、最多がキューバの 10 回、ニカラグアが 5 回、コロンビアが 4 回、ベネズエラが 3 回で、今回でイタリアが 4 回目、オランダが 3 回目となる。

これまでアジアでは日本、韓国が 1 回ずつで、台湾は 2 回開催している。

2007 年第 37 回台湾大会までの国別の記録を見ると、最多出場はニカラグアとキューバの 29 回、プエルトリコとパナマが 25 回と続き、出場歴があるのは世界で 35 カ国・地域に上る。

優勝回数の最多は 25 回のキューバ（2 位－2 回、3 位－2 回）であり、1984 年第 28 回キューバ大会以来 9 大会連続優勝をしたが、前回台湾大会ではロンゴリア（レイズ）、ラズマス（カージナルス）、ニックス（W ソックス）らを擁したアメリカに破れ記録更新はならなかった。

他の優勝国は、アメリカとベネズエラが 3 回、コロンビアが 2 回、イギリス、韓国、プエルトリコ、ドミニカ共和国の 4 カ国が 1 回ずつである。

### 2. 日本とワールドカップ

日本の初出場は、1972 年の第 20 回ニカラグア大会で、その年の都市対抗優勝チームである日本楽器が中心となり編成された。

日本チームは、参加 16 カ国中 4 位の成績を収め、アジア地域のレベルの高さを各国に知らしめることとなった。

これまで日本は 15 回出場し、キューバが不参加だった 1982 年第 27 回韓国大会での 2 位が最高成績で、3 位成績を 5 回収めている。

当初は社会人のみで出場していた日本代表も 1980 年第 26 回日本大会では、原 辰徳（東海大－現巨人監督）が大学生として初めて代表入りした。

また、2001 年第 34 回台湾大会は、初めてプロ選手が出場し、高校生も初代表となった大会となった。

その大会では、4 位に終わったものの、高橋由伸（巨人）、井口資仁（ソフトバンク－ファイリーズ）、井端弘和（中日）、阿部慎之助（巨人）、藤井秀悟（ヤクルト－日本ハム）ら 14 名のトッププロ選手と、西郷泰之（三菱ふそう－Honda）、黒須 隆（日産自動車）らの五輪経験者を含む社会人が 4 名、久保裕也（東海大－巨人）、館山昌平（日本大－ヤクルト）らの大学生が 5 名、また高校生の寺原隼人（日南学園高－現横浜）が出場し、プロ、社会

人、大学生、高校生と今後二度と見られないであろう 4 世代混合の代表チームとなった。

その他最近の大会を見ると、1998 年第 34 回イタリア大会では、上原浩治（大阪体大－巨人－オリオールズ）、二岡智宏（近畿大－巨人－日本ハム）、阿部慎之助（中央大－巨人）、藤井彰人（近畿大－楽天）、的場直樹（明治大－ソフトバンク）ら大学生選手が出場し 5 位となっている。

2003 年第 35 回キューバ大会においては 3 位という好成績を収めたが、野間口貴彦（シダックス－巨人）、佐藤 充（日本生命－中日）、竹原直隆（三菱自動車岡崎－千葉ロッテ）らの活躍があり、吉浦貴志（日産自動車）が本塁打、打点の二冠と日本選手としては初の大会 MVP を獲得した。

2005 年第 36 回オランダ大会では 5 位に終わったものの、キューバ大会に続き出場した松井光介（JR 東日本－ヤクルト）と草野大輔（Honda 熊本－楽天）、また武田 勝（シダックス－北海道日本ハム）や梵 英心（日産自動車－広島）、金子洋平（Honda－北海道日本ハム）らが投打の中心となった。

2007 年第 37 回台湾大会は、各国が北京五輪を見据えたプロ選手中心のチーム編成で臨んできたが、日本はオールアマで参加。その年のプロ野球ドラフトでは長谷部康平（愛知工大－楽天）と小窪哲也（青学大－広島）のみが指名されただけのメンバーであったが、各国プロ代表を破り見事 3 位となった。この代表チームに急遽召集された攝津 正（JR 東日本東北－ソフトバンク）が 4 勝 0 敗で最高勝率賞を獲得し、西郷泰之とともにオールスターメンバーにも選ばれた。

以上